2024.1.7 神戸新聞

加西・宇仁地区　住民組織運営の朝市

新鮮野菜届け1500回超

市外にもファン　地区住民と交流広がる

加西市宇仁地区の住民組織「宇仁郷まちづくり協議会」が地元の野菜や加工品を販売する「宇仁の朝市」が、2009年のスタートから数えて1500回を突破した。新鮮な野菜を安価で購入できると、市外にもファンが拡大。運営スタッフがお茶を振る舞い、常連客がケーキや豚汁、かす汁を差し入れるなど、地区外の住民との交流も広がっている。（敏森潤子）

朝市は09年7月、同地区の活性化を目的に、温泉施設「根日女の湯」（同市都染町）で始まった。同施設の閉店を経て現在は、土曜に滝野温泉ぽかぽ（加東市下滝野）、日曜に青野町公民館（加西市青野町）で出店する。年間100回以上開催し、昨年12月24日に1500回目を迎えた。

運営は同協議会の朝市部会が担当。男性7人が、前日に生産者から出荷商品の一覧表を受け取り、商品に貼る値札を作成。女性23人が交代で店頭に立つ。

生産者の多くは兼業農家で、家族のために栽培した野菜や果物を出荷する。同部会長の繁田進作さん（76）は「安全安心の農作物」と胸を張る。自宅で食べきれずに廃棄していた野菜を販売するようになり、生産者の意欲が高まった。

開店は午前8時だが、30分前から客が列をつくり、軽トラックで運んできた商品を、われ先に品定めすることも。冬はハクサイや大根、春にはトマト、夏はブドウが並ぶ。漬物、ジャム、赤飯、おはぎなど加工品も人気だ。品切れになると出品者が「採ってくる」と畑へ。産地直送の新鮮さと生産者の優しさが、人を引き寄せる。

大阪府門真市の会社経営者内山照子さんは「鳥骨鶏の卵を貰って、ふ卵器で温めたらひなが生まれた」と楽しそうに話す。「ここに来ると面白いことがいっぱい」と、月1、2回通っているという。

繁田さんは「朝市の継続は、健康維持にもつながっている。今年7月の15周年に向けて、さらに頑張りたい」と張り切っている。

新鮮な野菜を販売する宇仁郷まちづくり協議会のメンバー＝加東市下滝野